

広域科学専攻年報「Frontière」

第11号発刊にあたって

広域科学専攻長 江里口良治

「広域科学」という言葉は総合文化研究科の中では定着しているが、東京大学の外では事情は異なる。大学の研究者や学生でも東京大学以外では「広域科学」という言葉を初めて耳にしたとき、「広域?」、「広域科学?」という疑問が先にたち、具体的内容を思い浮かべるのは難しいようである。

「広域科学」という言葉自体は「広い領域にわたる」理系の科学といった意味に解されるであろう。しかし、「広域科学専攻」という名称を総合文化研究科の中の理系を中心とした構成員が、自らの大学院の専攻名として選択した際には、もっと野心的な意図がこめられていたはずである。つまり、「様々な領域に広がった駒場の理系の研究者により、既存の分野での研究の発展はいうまでもなく、異なる研究分野の研究者が協力することにより、これまでにない新しい分野を開拓し、それを広大な研究分野に育て、研究成果を生み出す」という目的である。

それを実現するには様々な分野の研究者が存在することが条件となるが、実際に広域科学専攻に属する教員の出身分野をまとめたものを目にしたことはない。出身の学部や大学院の名称が研究分野を適切に示すとは限らないが、ここでは従来の学部や大学院の分類によって広域科学専攻に所属する構成員の統計を取ってみた。下記の表を見ると、広域科学専攻を構成する教員が本当に広い分野の研究者であることが分かっていただけではないかと思う。さらに、広域科学専攻の三系の特色も現れているようである。

広域科学専攻構成教員の出身学部・大学院の分野別割合（学部／大学院%）

	理学	工学	教養	教育	農学	医学	体育	文学	薬学
生命環境科学系	48/55	2/2	14/11	20/19	2/2	2/8	7/0	5/3	2/2
広域システム科学系	43/51	28/31	22/16	2/0	2/2	0/0	0/0	2/0	0/0
関連基礎科学系	66/80	18/14	16/6	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0

(駒場 2003 による)